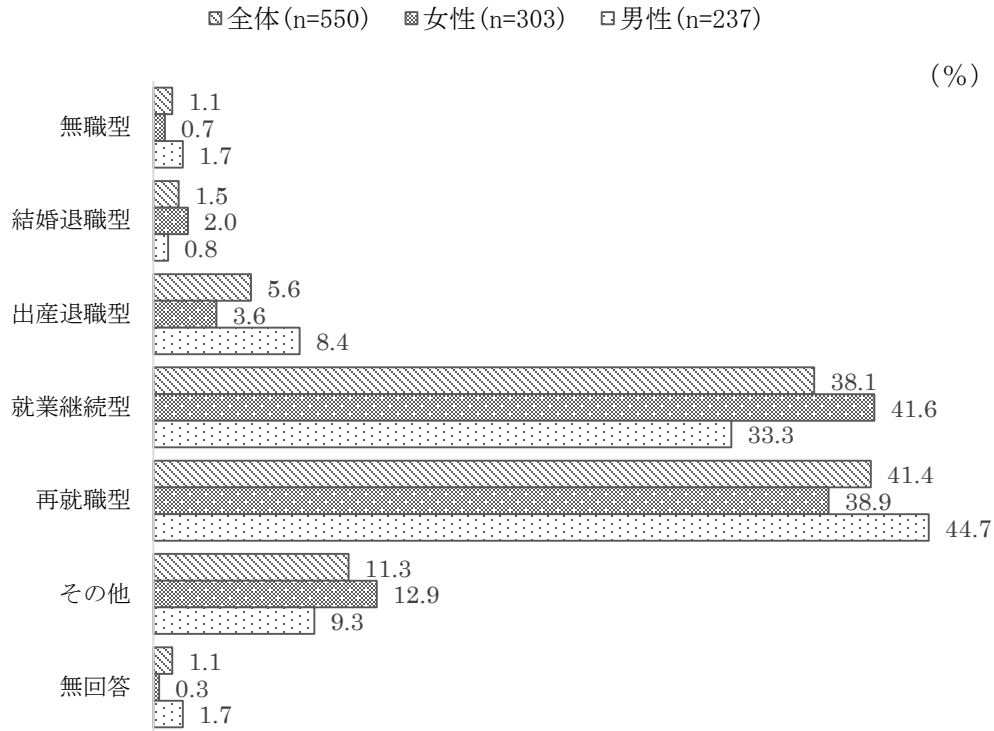


3 男女の就業・仕事について

1 女性の働き方の理想

男女ともに、【子供ができて、ずっと職業をもち続けた方がよい】、【子供ができれば辞めるが、子供が成長したら再び職業をもつ方がよい】が高くなっています。



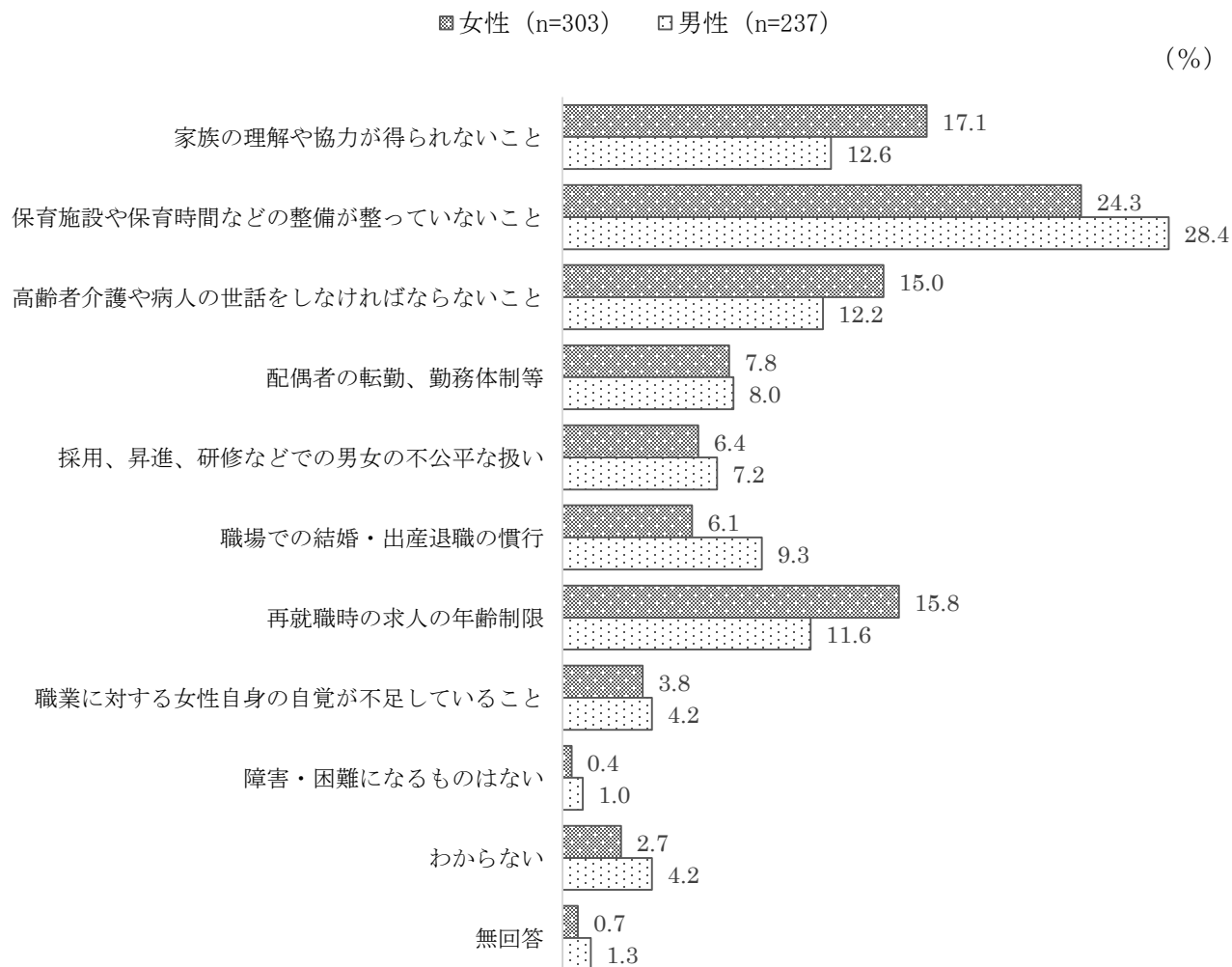
本来の選択肢	再定義した選択肢
女性は職業をもたない方がよい	無職型
結婚するまでは職業をもつが、結婚したら辞めた方がよい	結婚退職型
子供ができるまでは職業をもつが、子供ができれば辞めた方がよい	出産退職型
子供ができて、ずっと職業をもち続けた方がよい	結婚退職型
子供ができれば辞めるが、子供が成長したら再び職業をもつ方がよい	無職型

【その他】を選択した方の意見

- ・すべての選択肢を、すべての女性が自由に選べる社会であるのがよい。
- ・個々の意思が最大限に尊重されれば、どちらでもよい。
- ・不妊治療と仕事が両立されるべき（子供ができなかったとしても）。
- ・家庭によって、働き方は様々でよい。
- ・各個人の経済状況や職種により違うと思うので、働きたい人が働ける状況を作ることが大切だと思う。

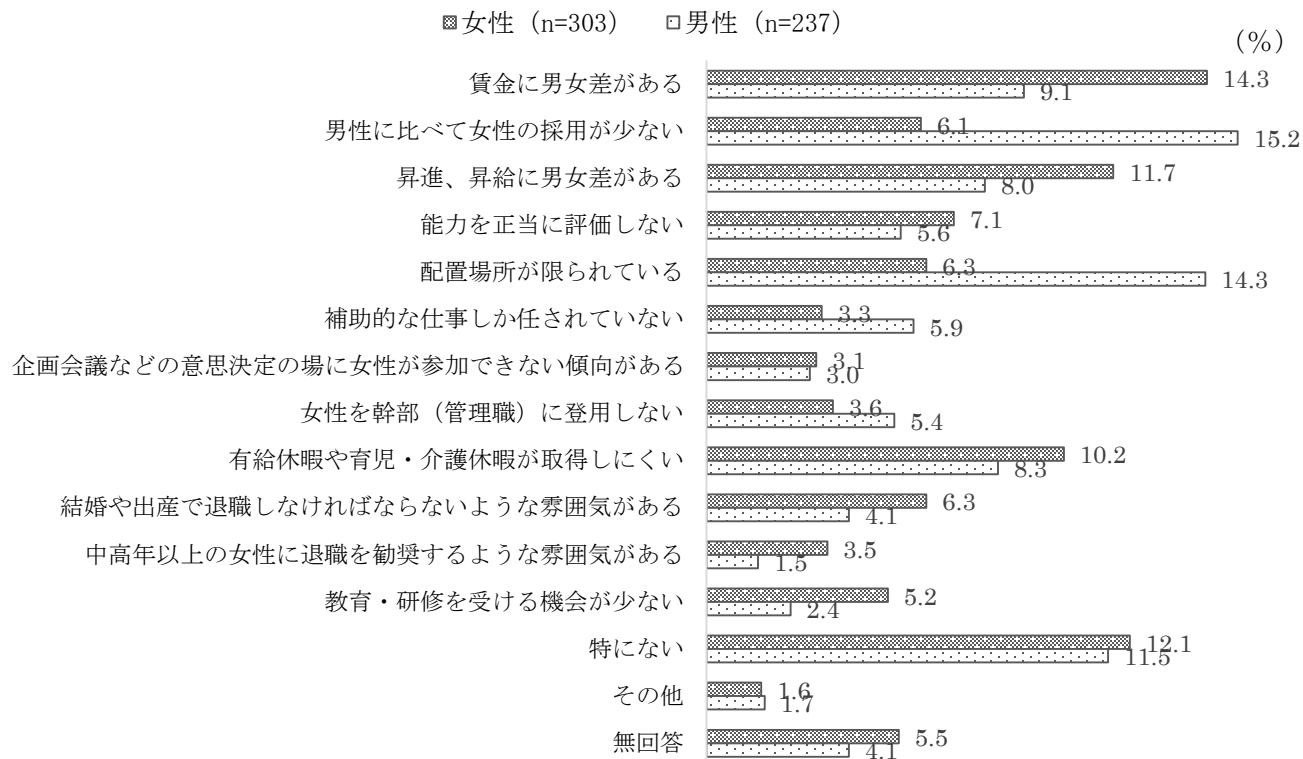
2 女性が職業を続けるうえでの障害

男女ともに、【保育施設や保育時間などの整備が整っていないこと】が最も高く、次いで【家族の理解や協力が得られないこと】が高くなっています。その他【高齢者介護や病人の世話をしなければならないこと】、【再就職時の求人の年齢制限】も高くなっています。



3 職場での女性に対する仕事の内容や待遇面の差別

女性では「賃金に差がある」、「昇進、昇給に男女差がある」が高く、男性では「男性に比べて女性の採用が少ない」、「配置場所が限られている」が高く、女性の倍以上になっています。

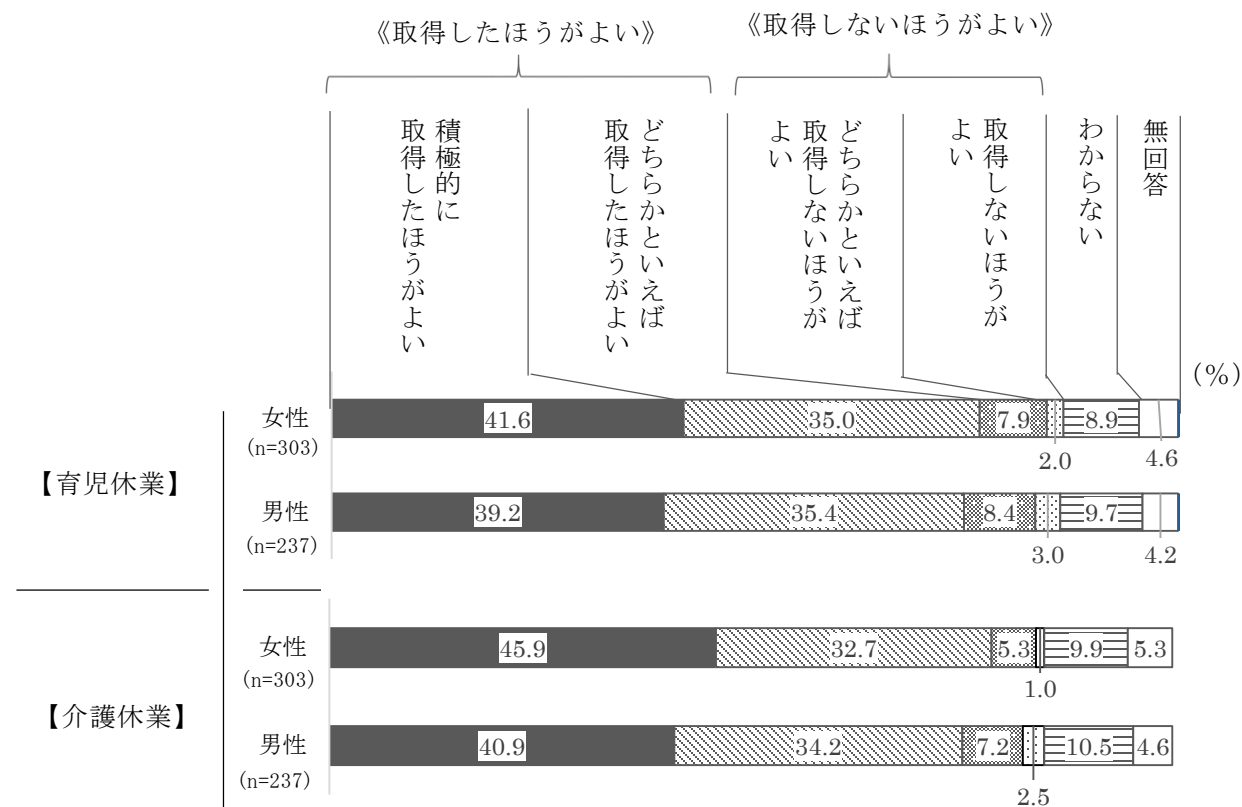


【その他】を選択した方の意見

- ・職種によるので、何でも同じ様にはできない。
- ・男性の多い職場で女性への嫌がらせがある。
- ・公務員だったため、男女差はないような気がしていた。
- ・デパートに勤めていた時、特に年代の高い世代で管理職などについている方ほど、女性を同等と扱うことが浸透していないように感じる場面があった。
- ・上司の好みによる、ひいき。
- ・子育て等を優先する方は、退職していた。
- ・力仕事が多いので、事務系になってしまう。
- ・「生理休暇」はあっても、上司が男性だと申請しづらい。結局「欠席」扱いとなってしまう（有給も事後申請はとれない）。
- ・総合職でも一般職の男性に対して補助をさせられる。一般職の女性がやるお茶だしを年が下だと総合職でもやらされる（男性総合職はやらされない）。

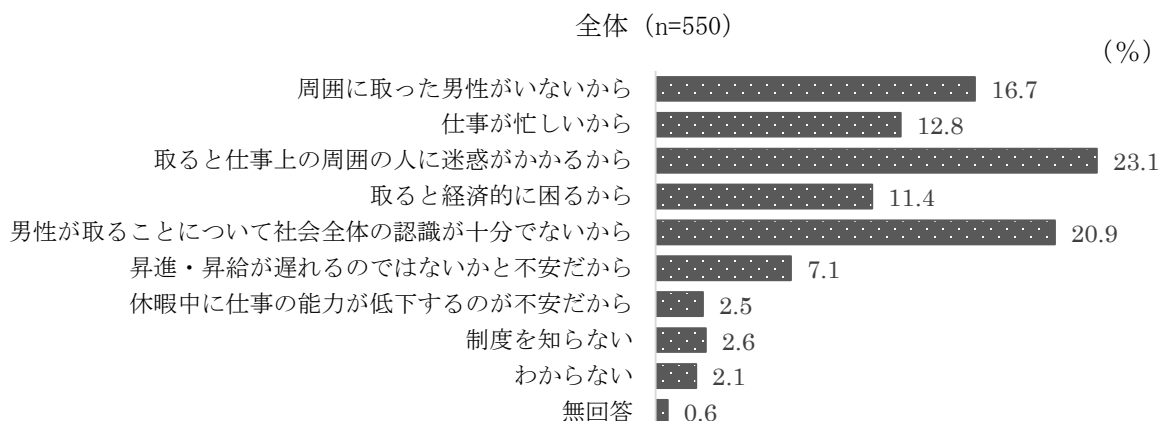
4 男性の育児休業や介護休暇の取得

【育児休業】は《取得したほうがよい》は男性が74.6%、女性が76.6%となっています。
 【介護休業】は《取得したほうがよい》は男性78.6%、女性が75.1%となっています。男女ともに《取得したほうがよい》が過半数を超えています。



5 男性が育児休業・介護休業を取得しない理由

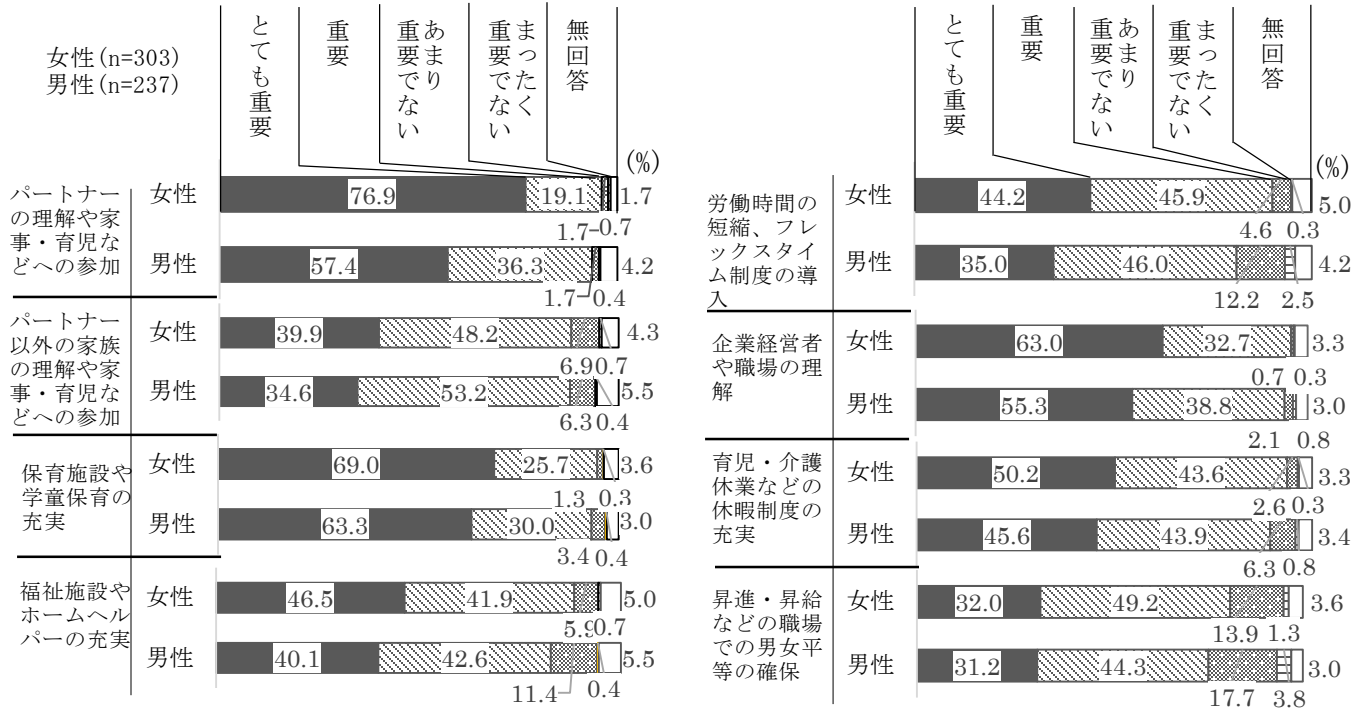
【取ると仕事上の周囲の人に迷惑がかかるから】が最も高く、次いで【男性が取ることに
 ついて社会全体の認識が十分でないから】となっています。



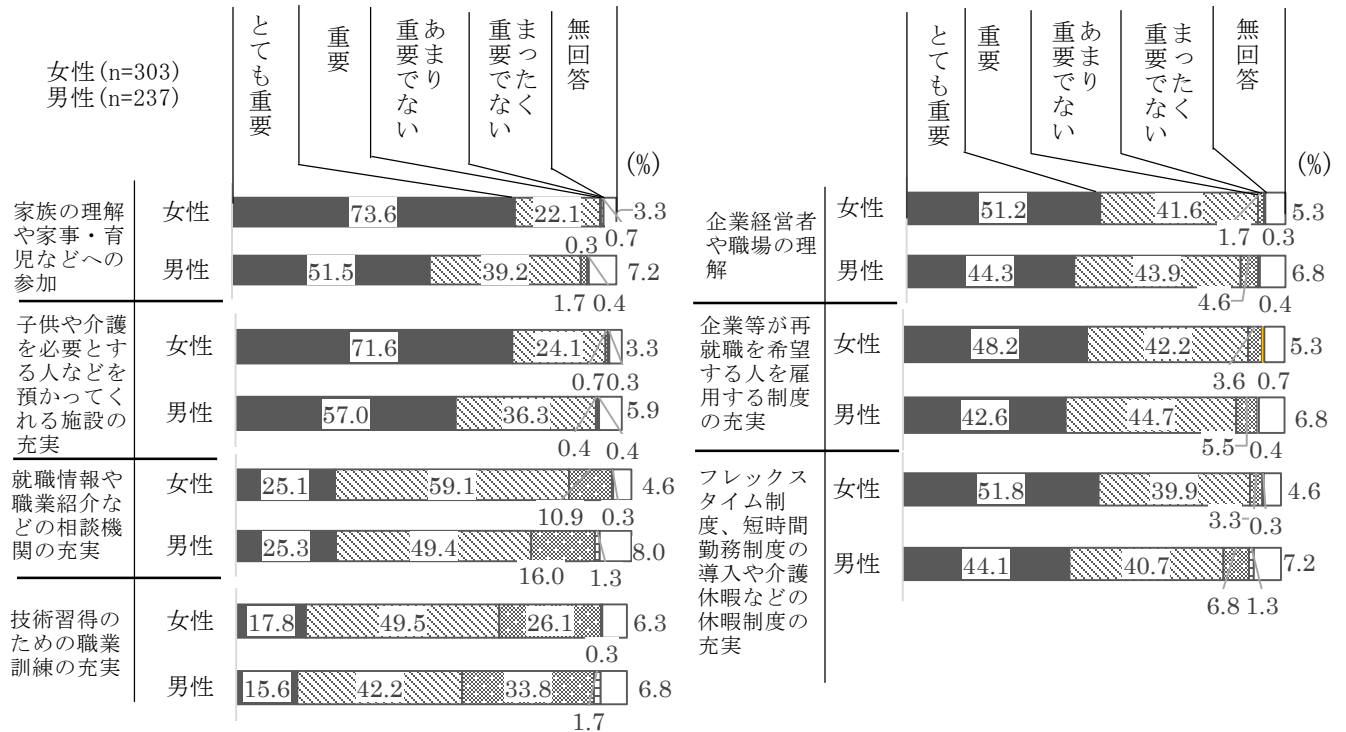
6 女性が結婚・出産後も働き続けるためや再就職するために重要なこと

退職せずに働き続けるために「とても重要」なことは、女性は【パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加】が最も高く、男性は【保育施設や学童保育の充実】が最も高くなっています。また、結婚・出産後に再就職するために「とても重要」なことは、女性は【家族の理解や家事・育児などへの参加】が最も高く、男性は【子供や介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実】が最も高くなっています。

(1) 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと

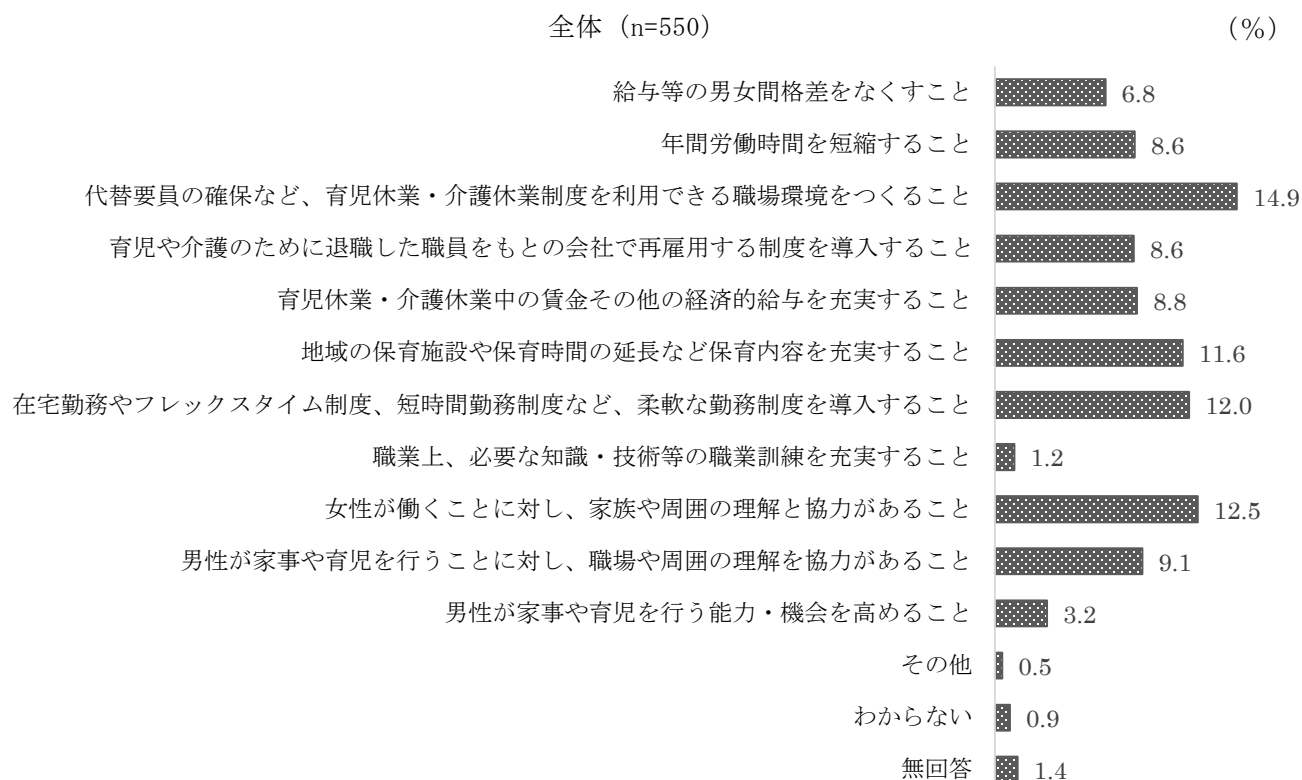


(2) 女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するために重要なこと



7 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために必要な条件

【代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること】が最も高くなっています。



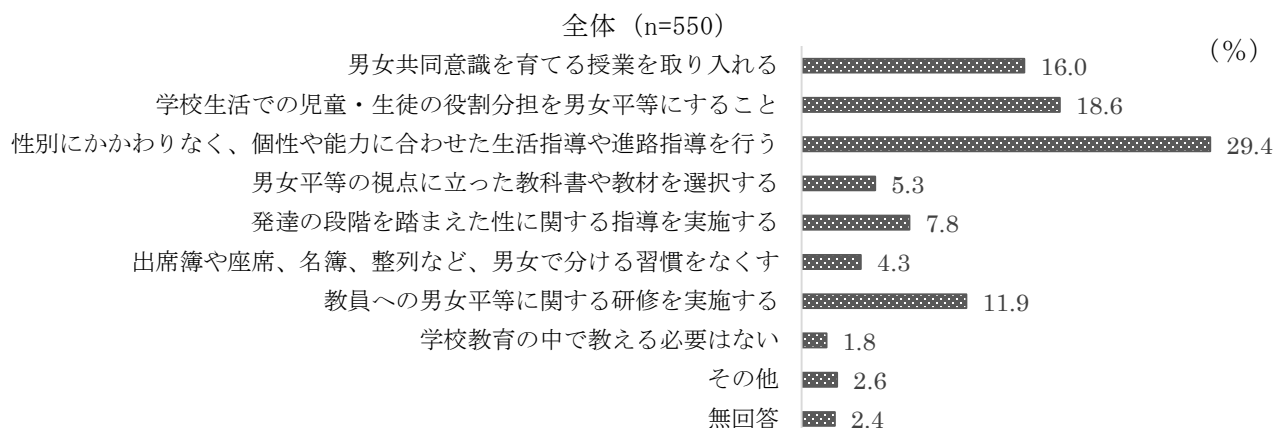
【その他】を選択した方の意見

- ・ 選択肢のすべての事。
- ・ 何の為に働くかを本人が自覚しないとどんな法律があっても仕方ないと思う。
- ・ 企業に負担を押し付けるのではなく、行政がかかわる事。
- ・ 男性が各種制度を使いしやすくする環境づくり（法律、条例）。
- ・ 家庭次第で家庭の問題。
- ・ 家庭の仕事に対して、社会に出ているのと同様にパートナーが一番に理解してくれる事。そして、女性が社会進出することはあくまでも家庭の為であると感じてほしい。

4 学校教育について

1 学校で男女平等教育を進めるために取り組んでほしいこと

【性別にかかわらず、個性や能力に合わせた生徒指導や進路指導を行う】が最も高く、【学校生活での児童・生徒の役割分担を男女平等にすること】、【男女共同意識を育てる授業を取り入れる】、【教員への男女平等に関する研修を実施する】が1割以上となっています。



【その他】を選択した方の意見

- ・「〇〇教育」ということで、何でも学校教育に入れていくのはいかがなものか。本来は、家庭・地域で行うべきものではないか。でないと、学校現場が対応しきれない。学校が学力向上に専念できる環境づくりをすべきであるとする。
- ・男女平等といってもできる事、できない事があるので、表面上の平等には反対。
- ・男女平等も必要だが、それぞれの役目（適した能力）を教える事も必要だと思う。
- ・教員の教育のやり直し。
- ・自分で疑問に思ったことを自分の言葉で誰かに伝えられる、疑問をもつ周囲の環境を自身で変えていける認識を持てる教育を進めてほしい。
- ・家庭や地域への男女平等意識を持ってもらうための配信。
- ・学校ではなく、企業中心に男女平等の教育をしなくてはならないのでは。
- ・男女平等であっても、男性らしさ、女性らしさを教える授業。
- ・男女平等といえど本当に平等になることはできないと思うので、理想と現実は違うという意味のもと、平等を模索する様な指導。
- ・無理に男女平等を訴えると、逆に男女不平等に見えてくる。自然にしている方がよいと思う。
- ・男女は社会の中で平等に扱ってほしいが、生活の中では男女は違うことも沢山あるので臨機応変にしてほしい。
- ・男女の差別はいけませんが、男女の区別は必要。そこを考えて教育が必要。
- ・男・女の別をしっかりと教育すること。男女の別をしっかりと理解することで初めて男女の平等を考え、実践することができるのではないかと。
- ・今の学校教育で上記の事はすでに取り組んでいないのだろうか。
- ・父・母の生活状況を考えさせる。
- ・働く事の意義・家事能力の必要性を理解させる。